

1 単元について

対 象 学 年	中学校 第2学年
学 習 指 導 要 領	A 体づくり運動
単 元 名	「体ほぐしの運動」（全3時間）
単 元 目 標	<p>（1）態 度（運動への関心・意欲・態度） 自己の体に関心をもち、仲間と共に交流しながら運動する楽しさや体を動かす心地よさを味わうことができる。</p> <p>（2）学 び 方（運動についての思考・判断） 自分の心や体のコンディションに気付き、それらに応じた運動を自分で選択・決定し、構成することができる。</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入（計画会）では、「体ほぐしの運動」が、心と体の問題に対処するための運動であり、他の運動のように技能を高めることに主眼を置くものではないことを説明する。 ・単元前半は、生徒が運動を通して体への気付きを深めることができるよう、数多くの運動に親しませ、多様な運動感覚を引き出すようにする。 ・単元後半に、生徒自身が自分の心や体の状況に応じた運動を構成することができるよう、運動を観点ごとに整理し一覧表にまとめていく。また一覧表は要配慮生徒が運動を選択する際の手助けとする。 ・体への気づきを促す言葉を教師から積極的にかけるようにする。（特に肯定的な言葉かけをする。） ・生徒一人一人が授業に見通しをもち、心や体の変化を感じることができるよう評価カードを作成する。 ・多くの仲間と交流できるよう、それぞれの運動にふさわしいペアやグループを随時つくるようにする。 ・心や体の緊張感をほぐし、運動の楽しさを十分に味わうことができるよう、運動の特徴や強度に応じた音楽を活用する。 <p>単位時間の工夫</p> <p><計画の場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が見通しをもち、進んで活動することができるよう、1時間の学習の進め方を具体的に示す。 ・簡便な学習カードを用意し、現在の心と体の状態を記入できるようにする。 <p><展開の場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を積極的に利用し、体への気付きを素直に表現できるような雰囲気をつくるとともに、学習の進め方や運動の構成の仕方が分かるよう環境を整える。 ・自分の心や体の状況に応じた運動を単元当初から選択できる場を設け、主体的に運動しようとする姿勢を育てる。 ・仲間と運動をする中での「つぶやき」を大切に、特に自分の体や仲間の体に関わった気付きを位置付け、広める。 <p><評価の場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・心と体の状態の変化について記述し、今日の自分自身の心と体についての理解を深められるようにする。 ・運動を行う中で、自分や仲間の体への気付きについてのつぶやき、自分の体の状態に応じた運動の選択や判断について価値付ける。
参 考 資 料	<p>資料1：事前保健学習指導案 ...体ほぐしの運動の意義を学ぶ授業を行う</p> <p>資料2：授業板書計画及び掲示...常時体育館に掲示し、目指す姿の意識化を図る</p> <p>資料3：体ほぐしの運動一覧表...それぞれの運動のねらいと方法を掲示し、運動を選択する際の資料とする</p> <p>資料4：事前アンケート ...個々を授業で生かすために、実態を把握する</p> <p>資料5：学習カード（表面） ...心と体の変化への気付きや調整、交流について振り返られるようにする</p> <p>資料6：学習カード（裏面） ...運動を選択し、構成する手助けとする</p> <p>資料7：MOカード</p> <p>資料8：振り返り用紙</p>

2 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	エ 運動についての知識・理解
内容ごとのまとめと評ま価り規準	体ほぐしの運動に対する関心や意欲をもって互いに協力して運動をしようとする。また、健康や安全に留意して運動をしようとする。	自分の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方を工夫している。	体ほぐしの運動の必要性や運動の行い方、心身への効果を理解するとともに、課題に応じた体ほぐしの運動の構成の仕方を理解し、知識を身に付けている。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の状態や変化に気付き、体を動かす楽しさや心地よさを味わおうとする。 (楽しさ体験) ・仲間と協力して互いに補助し合ったり、反復したりして進んで運動に取り組もうとする。 (社会的態度) ・お互いの体の状態を意識したり、気を配ったりして、運動をする上での安全に留意しようとする。 (安全な態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動から、自分の心身の実状を踏まえて、目的に合った運動を選び、構成し活用している。 (課題達成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動の意義とその行い方を知っている。 (運動・安全) ・体ほぐしの運動や構成の仕方や活用の仕方を知っている。 (運動・安全)

体ほぐしの運動は、技能の獲得・向上が直接のねらいではないので「運動の技能」の観点はない。

体ほぐしの運動の発展

1 年 生	2 年 生	3 年 生
多様な運動の経験 運動の心地よさを実感	運動の選択 運動の効果を実感	心と体に 応じた運動の構成 運動のよさの再認識

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	エ 運動についての知識・理解
単位時間における具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体に関心をもち、体ほぐしの運動の楽しさや心地よさ味わおうとする。 ・仲間と楽しみながら運動するよさを積極的に味わおうとする。 ・自分や仲間の高め合いの姿を具体的に振り返り、認め合おうとする。 <p>ここでの高め合いとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動すると気持ちいい」などの気付きに関する事、 「調子を整えてみるためには～」という調整に関する事、「できる」ようになったということである。 ・所属 同調 協力 連帯という集団としての高まりのことである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や仲間の体について、感じ取ったり、比較したりしながら「気付き」を深めている。 ・小集団内で運動をよりよくするために目的に合わせた運動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の意義を理解し、学習の目的と進め方を理解している。 ・それぞれの運動の活用の仕方を知り、運動を構成する仕方を理解している。

体ほぐしの運動には「運動の技能」の観点はない。

3 指導と評価の計画 (全3時間)
(1) 単元指導計画

体ほぐしの運動(2年生)

単元指導計画

S中学校

条件 過程	学 習 内 容		学 習 活 動		教 師 の 指 導																										
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面		運 動 の 側 面	集 団 の 側 面																									
計 画	0 5	自己の体に気付いたり、運動そのものに心地よさを感じたりすることを通して、心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を行うことができる。	仲間とかかわることの楽しさを感じたり、仲間のよさを互いに認め合ったりすることで、仲間として個々を尊重し合うことができる。	・教師の話聞き、単元全体の見直しをもつ。 ・体ほぐしのねらい 体への気付き 体の調整 仲間との交流	・特にストレスの解消や運動そのものの楽しさなど、心や体の問題に対処できることを理解させる。 ・めざす姿を明確に示し見直しをもたせる。	・仲間と運動をする中で、体と心の関係を理解させ、仲間の体からのメッセージを敏感にキャッチする事を話す。																									
展 開	1	体ほぐしの運動の内容をできるだけ多く知り、それぞれの運動を身に付けることができる。 ・活動の流れ やや活動的 静的な動き 活動的な動き ・人数構成 固定のグループをつくる 1人、G内のペア(トリオ)、小集団、学級 以上の事を加味した具体的な運動を行う。	仲間の指示でまとまって活動できる。 ・集合の意識 ・一人一人の参加態度	体ほぐしの運動の体験 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td>1人</td> <td>ペア</td> <td>小数</td> <td>多数</td> </tr> <tr> <td>のびのび</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>はずんで</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>リラックス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハード</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ~具体例~ ウォーキング 相撲シリーズ ボールおくり くっつきリレー スキップ あんたがたどこさ 馬跳び 因幡の白兔 ストレッチ おんぶで歩こう ヘビの皮むき 進化ジャンケン ダッシュ さげとさめ ぴったり 10秒間走 線鬼		1人	ペア	小数	多数	のびのび					はずんで					リラックス					ハード					・できるだけ多くの「体ほぐしの運動」を行うことで、その運動の意味とやり方を理解させる。 ・体ほぐしの運動を行いながら運動の感じと構成人数の表を埋めることにより運動の内容について理解を深める。 ・単なる交流に終わってしまわないように体に関わる気付きや調整を意識した声かけを行う。 ・体への気付きや調整具合についてのつづやきを価値付ける。(特に気付きはボジティブに捉えることができるように) ・運動の構成を自分たちでできるようにペアの段階から、自分の選択・決定する場を設ける。 ・授業の始めと途中と最後に体の状態を記述することで自分の体について考えさせる。 ・昨日の自分と比較して自分の体の状態がどうであるか発問することにより、状態に気付かせる。また生徒からそのような意見があれば取り上げ価値付ける。	・仲間と声を掛けあって、集合したり、運動を教えあったりしているか確認をする。そのような生徒がいれば価値付ける。 ・特定のグループで行う際、グループの役割を果たしながら活動できる生徒を認める。 ・うまくできない仲間に温かく接し、援助する姿や、安心して活動できる雰囲気全体に価値付ける。 ・仲間と共に運動する中で仲間の体から感じることや自分との比較から体について気付くような発言があれば認める。
		1人	ペア	小数	多数																										
	のびのび																														
はずんで																															
リラックス																															
ハード																															
2	体ほぐしの運動の内容を知ると共に、心と体の状態に応じた体ほぐしの運動をペア及び小集団で行うことができる。 ・ウォーミングアップで新しい運動を取り入れる。	仲間とかかわる楽しさを感じ、声をかけ合って学習できる。 ・励ましの声 ・賞賛の声 ・アドバイスの声	体ほぐしの運動の体験+小集団で運動を選択し実践 ・グループの構成(L、MO)を生かす ・ペアやトリオの少人数で、自分に適した運動を選ぶ場を設定する。	・やや活動的 静的 活動的の流れで体ほぐしの運動を構成していく。 ウォーミングアップ+小集団で運動を構成し実践 ・グループで運動を選択させる際、活動時間や場を限定して、運動を構成させる。 ・やや活動的 静的 活動的の流れは変えずに体ほぐしの運動を行う。	・昨日の自分と比較して自分の体の状態がどうであるか発問することにより、状態に気付かせる。また生徒からそのような意見があれば取り上げ価値付ける。	・仲間と積極的に関わってうまく運動をやらうとする態度を認める。																									
3	心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を小集団の中で主体的に行うことができる。	仲間のよさを認め合いながら、互いに高まり合うことができる。 ・アドバイスの声 ・仲間に対する貢献の態度 信頼 ・よりよくなるうとする声かけ				・仲間の指示で互いのよさを認めあったり、更に高まりあったりする声かけを認め価値付ける。																									
評 価	0 5	個人の運動に対する態度の変容及び本単元の運動面での成果について振り返ることができる。	本単元での仲間に対する態度の変容及び集団面での成果について振り返ることができる。	・個々で学習活動全体を振り返る。 自分の心と体の状態について 仲間との交流について	・運動を行ってみたいの他単元との比較や感想を取り上げ紹介することで更にこの運動の価値を深める。	・仲間と運動することのよさや仲間がいるからこそその楽しさを具体的に取り上げ、広める。																									

体ほぐしの運動 (1 年生)

単元評価計画

S 中学校

条件		学 習 内 容		観 点 別 評 価 規 準 及 び 方 法		
過程		運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の知識・理解
計 画	0 ・ 5	体ほぐしの運動を行うことで、自己の体に気付いたり、運動そのものに心地よさを感じたり、心と体の状態を理解したりすることができる。	声をかけ合ったり、教え合ったりすることで、仲間と積極的にかかわり、共に学びあう仲間になることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心を持ち、体ほぐしの運動の楽しさや心地よさ味わおうとする。 (学習カード・観察) 		<ul style="list-style-type: none"> 運動の意義を理解し、仲間と共に学びあう集団づくりのために、学習の目的と進め方を理解している。 (学習カード)
	展 開	1	<p>体ほぐしの運動の内容をできるだけ多く知り、それぞれの運動を身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の流れ やや活動的 静的な動き 活動的な動き 人数構成 固定のグループをつくる。 1人、G 内のペア (トリオ) 小集団、学級 1 年生であるのでできるだけ身体接触の少ない運動を行う。 <p>以上の事を加味した具体的な運動を行う。</p>	<p>仲間の指示でまとまって活動できる仲間になることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の意識 一人一人の参加態度 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と楽しみながら運動するよさを積極的に味わおうとする。 (学習カード・観察) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の体について、感じ取ったり、比較したりしながら「気付き」を深めている。 (観察・つぶやき)
2		体ほぐしの運動の内容を知ると共に、多くの体ほぐしの運動をペア及び小集団で行うことができる。	仲間とかかわる楽しさを感じ、声をかけ合って学習できる仲間になることができる。		<ul style="list-style-type: none"> 小集団内で、教え合いや励ましあい声をかけ、より楽しんだり、上手になろうとしている。 (学習カード・観察) 	
3		体ほぐしの運動の内容を知ると共に、多くの体ほぐしの運動を大集団で行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 励ましの声 賞賛の声 アドバイスの声 			<ul style="list-style-type: none"> それぞれの運動の活用の仕方を理解している。 (学習カード・観察)
評 価	0 ・ 5	個人の運動に対する態度の変容及び本単元の運動面での成果について振り返ることができる。	本単元での仲間に対する態度の変容及び集団面での成果について振り返ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の高めあいの姿を具体的に振り返り、認めあおうとする。 (学習カード・観察) 		

体ほぐしの運動 (2年生)

単元評価計画

条件 過程	学 習 内 容		観 点 別 評 価 規 準 及 び 方 法		
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の知識・理解
計 画	0 ・ 5	自己の体に気付いたり、運動そのものに心地よさを感じたりすることを通して、心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を行うことができる。	仲間とかかわることの楽しさを感じたり、仲間のよさを互いに認め合ったりすることで、仲間として個々を尊重し合うことができる。	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしの運動の楽しさや心地よさを味わおうとする。 (学習カード・観察)	・運動の意義を理解し、仲間と共に学びあう集団づくりのために、学習の目的と進め方を理解している。 (学習カード)
展 開	1	体ほぐしの運動の内容をできるだけ多く知り、それぞれの運動を身に付けることができる。 ・活動の流れ やや活動的 静的な動き 活動的な動き ・人数構成 固定のグループをつくる。 1人、G内のペア(トリオ)、 小集団、学級 以上の事を加味した具体的な運動を行う。	仲間の指示でまとまって活動できる。 ・集合の意識 ・一人一人の参加態度	・仲間と楽しみながら運動するよさを積極的に味わおうとする。 (学習カード・観察)	・自分や仲間の体について、感じ取ったり、比較したりしながら「気付き」を深めている。 (観察・つぶやき)
	2	体ほぐしの運動の内容を知ると共に、心と体の状態に応じた体ほぐしの運動をペア及び小集団で行うことができる。 ・ウォーミングアップで新しい運動を取り入れていく。	仲間とかかわる楽しさを感じ、声をかけ合って学習できる ・励ましの声 ・賞賛の声 ・アドバイスの声	・小集団で運動をよりよくするために目的にあわせた運動をしている。 (学習カード・観察)	
	3	心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を小集団の中で主体的に行うことができる。	仲間のよさを認め合いながら、互いに高め合うことができる。 ・アドバイスの声 ・仲間に対する貢献の態度 信頼 ・よりよくなるうとする声かけ	・小集団内で運動をよりよくするために目的にあわせた運動をしたり、運動を構成したりして、工夫しながら取り組んでいる。 (学習カード・観察)	・それぞれの運動の活用の仕方を知り、運動を構成する仕方を知っている。 (学習カード・観察)
評 価	0 ・ 5	個人の運動に対する態度の変容及び本単元の運動面での成果について振り返ることができる。	本単元での仲間に対する態度の変容及び集団面での成果について振り返ることができる。	・自分や仲間の高め合いの姿を具体的に振り返り、認め合おうとする。 (学習カード・観察)	

体ほぐしの運動 (3 年生)

単元評価計画

条件 過程	学 習 内 容		観 点 別 評 価 規 準 及 び 方 法		
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の知識・理解
計 画 0 ・ 5	自己の体に気付きたり、運動そのものに心地よさを感じたりすることを通して、心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を試行錯誤しながら行うことができる。	仲間と関わることの楽しさを感じたり、仲間のよさを互いに認め合ったりすることで、仲間として個々を尊重し、集団として高まり合うことができる。	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしの運動の楽しさや心地よさを味わおうとする。 (学習カード・観察)		・運動の意義を理解し、仲間と共に学びあう集団づくりのために、学習の目的と進め方を理解している。 (学習カード)
展 開	1 体ほぐしの運動の内容を知ると共に、心と体の状態に応じた体ほぐしの運動をペア及び小集団で行うことができる。 ・活動の流れ やや活動的 静的な動き 活動的な動き ・人数構成 固定のグループをつくる 1人、G 内のペア (トリオ) 小集団、学級 ・ウォーミングアップで新しい運動を取り入れていく。 以上の事を加味した具体的な運動を行う。	仲間の指示でまとまって活動できる。 ・集合の意識 ・一人一人の参加態度	・仲間と楽しみながら運動するよさを積極的に味わおうとする。 (学習カード・観察)	・自分や仲間の体について、感じ取ったり、比較したりしながら「気付き」を深めている (観察・つぶやき)	
	2	仲間とかかわる楽しさを感じ、声をかけ合って学習できる。 ・励ましの声 ・賞賛の声 ・アドバイスの声			・それぞれの運動の活用の仕方を知っている。 (学習カード・観察)
	3 心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を小集団の中で主体的に行うことができる。	仲間のよさを認め合いながら、互いに高まり合うことができる。 ・アドバイスの声 ・仲間に対する貢献の態度 信頼 ・よりよくなるうとする声かけ ・厳しい声かけ (仲間要求する声)	・自分や仲間の体について、よりよくするために目的に合わせた運動をしたり、運動を構成したりして、工夫しながら取り組んでいる。 (学習カード・観察)	・それぞれの運動の活用の仕方を知り、運動を構成する仕方を理解している。 (学習カード・観察)	
評 価 0 ・ 5	個人の運動に対する態度の変容及び本単元の運動面での成果について振り返ることができる。	本単元での仲間に対する態度の変容及び集団面での成果について振り返ることができる。	・自分や仲間の高め合いの姿を具体的に振り返り、認め合おうとする。 (学習カード・観察)		

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のめあて

態度の内容：仲間と進んで交流し、互いのよさを認め合いながら、互いに高まり合うことができる。

学び方の内容：心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を自ら選択し、仲間と運動を構成することを通して、体への気付きを深めることができる。

(2) 本時の位置

3 / 3時

(3) 展開案

条件 過程	学 習 内 容		学 習 活 動	教 師 の 指 導	
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 へ の 指 導	集 団 の 側 面 へ の 指 導
計 画	<p>心と体の状態に応じた体ほぐしの運動を構成し、気付きを深めることができる。</p> <p>めざす姿を確認し、それぞれの運動に応じて構成の内容を決めることができる。</p>	<p>仲間のよさを認め合いながら、互いに高まり合うことができる。</p> <p>互いの考えた構成について話し合うことができる。</p>	<p>ウォーミングアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの授業で行ってきた運動をもとに教師が構成した運動を行う。 やや活動的な運動「相撲シリーズ」 静的な運動「タイタニック片足立ち」 活動的な運動「線鬼」 <p>全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の課題の意味と今日の授業の流れについて説明し見通しを持つ。 <p>作戦タイム</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やや活動的 静的 活動的 やや活動的 静的」の流れで、体ほぐしの運動の構成を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップで師範し、本時見通しをもって取り組めるようにする。 自分のこと仲間のこと、体のことについて、気付いたり、調整したりしている生徒を価値づける。 運動の順番が適切であるかどうか確認をし、音楽と合わせた運動ができるようにする。 <p>【知識・理解】 それぞれの運動の活用の方法を知り、運動を構成する方法を知っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と共に楽しく運動したり、仲間の体について気付いたりしている生徒を価値付ける。 前時の姿から特に良い声かけの姿を取り上げ、話をする中で意図的に交流の大切さにも気付かせる 仲間との気付きの交流から、自分たちのやるべき運動をL中心に決定させる。
展 開	<p>自分たちの心と体の調子に合わせた運動を選択し、指示を出しながら運動をすることができる。</p> <p>互いに声をかけながら、体の状態を気遣ったり、表情から心の状態に気付いたりすることができる。</p>	<p>気楽な雰囲気の中で体ほぐしの運動に取り組むことができる。</p> <p>仲間と楽しく運動できている場合には、その雰囲気を大切に、仲間が困っている場合には助け合うことができる。</p>	<p>体ほぐしの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動を音楽に合わせて行う。 体育館内に均等に広がって行う。 一定時間を生徒に提示し、その時間に行える運動をグループでL中心に相談し、活動する。 <p>「やや活動的」</p> <p>「静的」</p> <p>「活動的」</p> <p>「やや活動的」</p> <p>「静的」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが選んだ運動を自信をもって行う事ができる。 <p>【思考・判断】 小集団内で運動をよりよくするために目的にあわせた運動をしたり、運動を構成したりして、工夫しながら取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動に自信をもって行えない生徒には教師も一緒に活動することによって「できる」という自信をつけさせる。 メンバーが一人生懸命運動を行い、自分や仲間の体のことに気付こうとしている姿を価値付ける。 	<p>【運動の構成方法に関わって】 カードの使い方指導、コンテンツの活用、運動を思い出させる、時間を確保しもう一度実際にやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特にLが運動をリードして自信をもって行っているか確認をする。 ～リードする姿として～ 上手くできない生徒の事を考え、よりよくなる方法を具体的に示している前向きな姿を認める。 ～留意することとして～ ともすると人前で主体的に動けずに指示を出せない生徒に強く当たってしまう子が見られるかもしれないことに留意する。
評 価	<p>グループ内で今日の心と体の状態について振り返ることができる。</p> <p>本時のめざす姿の達成具合についてクラス全体で振り返る。</p>	<p>グループ中やクラスの中での仲間とのかかわりについて振り返る。</p> <p>本時の目指す姿の達成具合についてクラス全体で振り返る。</p>	<p>グループでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで個人と仲間の面で振り返りをする。 <p>全体での振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の運動する中で自分の体の気付きや調整、交流について価値付けることができるものを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題の達成度を振り返り、今回の運動を通してのよさをグループを巡視しながら位置付ける。 全体会で特に自分の選んだ種目を自信をもって行っていた生徒を取り上げる。具体的事実を示して価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題の達成度を振り返り、今回の運動を通してのよさをグループを巡視しながら位置付ける。 進んで動きを示したり声をかけたりしていた生徒を認めることで、仲間に対する思いを価値付ける。

5 評価の実際と個に応じた指導事例

評価規準	<p><関心・意欲・態度> 仲間と楽しみながら運動するよさを積極的に味わおうとする。 <第1時間目に評価></p>	<p><思考・判断> 小集団内で運動をよりよくするために目的にあわせた運動をしたり、運動を構成したりして、工夫しながら取り組んでいる。 <第3時間目に評価></p>
評価方法	学習カード・観察	学習カード・観察
「努力を要する状況」判断される生徒の状況	ただ運動を行うだけで、自分の体や仲間の体に気付こうとしない。	グループ内での話し合いにおいて、自分が選びたい運動を選択することができない。
その要因	<p>の生徒 ア...その運動が持つ「よさ」がわかっていない。教師の説明不足であったり、本人の理解不足であったりする。</p>	<p>の生徒 ア...よさを思い出すことができない イ...運動の構成の仕方を理解していない。</p>
指導の手だて	<p>の生徒に対する手だて 【手だて1】 その運動の持つ「よさ」をもう一度丁寧に教える。 【手だて2】 その運動の持つ「よさ」を共に運動することで味わわせる。 【手だて3】 心拍数や呼吸数など具体的に理解できるものを尺度とし、自分や仲間の体に気付かせる。 【手だて4】 仲間の運動の姿と見比べる場を設定することで気づきを深める。</p>	<p>の生徒に対する手だて 【手だて1】 よさを思い出せない生徒は好きな運動を見つけさせるためにグループでもう一度運動を思い出させる。(リーダーが中心となって) 【手だて2】 ア、イの生徒共にコンテンツの活用をする。 【手だて3】 ア、イの生徒共にカードの使い方をもう一度確認をする。 【手だて4】 ア、イの生徒共にもう一度時間を確保し、やってみたそうな運動を実際にやってみる。</p>